第３学年　国語科　学習指導案

１　単元名　「おくのほそ道」を読んで批評文を書こう

２　単元の目標

（１）古典に示された内容やものの見方について関心をもち，自分なりの考えを交流しようとする。（国語への関心・意欲・態度）

（２）「おくのほそ道」が現代まで読まれ続けている作品であることに注目し，巧みな表現や作者の考えが表れている文を基に根拠を明確にして批評し，批評文を書くことができる。（書くことイ）

（３）当時の歴史的背景や風習・文化などに思いをはせながら，作者のものの捉え方や表現の仕方，感じ方を読みとることができる。（読むことオ）

（４）文語文の表現の仕方や文体の特徴に注意して読み味わうことができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　ア（イ））

３　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
古文を読み，様々な見方で読み味わって自分の意見をもとうとしている。	作品の良さや表現の巧みさが伝わるように根拠となる資料を引用して説得力のある批評の文章を書いている。（イ）	同じ作品の中の複数の文章を読み比べるなどして，新しい魅力を知ったり，自分の考えを深めたりしている。（オ）	古典の一節を引用するなどして，古典に関する批評文を書いている。（ア（イ））

４　単元と指導の構想

（１）単元と生徒

本校では，自ら本を手に取り，目的に応じて読むことのできる自立した読み手を育てるために，一つの解釈を目指す指導を根本的に考え直し，生徒が自分なりの主体的な捉え方をすることを目指している。本校では，今まで行ってきた場面ごとに順を追って内容を読み取っていくスタイルを改善し，「自ら課題を見付け，文章を根拠に自分はどう考えたかを表現する」ということを中心に据えて取り組んでいる。３年間を見通し，１年生では自ら課題を見付け課題を解決することを，２年生では自らの問いに対して文章を根拠にした感想交流を行うことを重点として実践し，３年生では文章のよさや価値を論じる批評ができるようになることをねらっている。

３年時の学習では，表現力の育成と，根拠を基に自分なりの価値観で批評ができるように指導計画を立て，３回の批評文を書く活動を実践した。１回目は６月に「握手」の批評文を，９月には「俳句」の批評文（鑑賞文）を，10月には和歌の批評文をそれぞれ書いている。

古文については，「おくのほそ道～冒頭～」のように現代語訳がしっかりついているものであれば，原文と現代語訳を見比べながら，内容を読み，考えることができる。しかし，現代語訳がついていないものになると，自分が考えている古文の意味が正解なのかが不安でなかなか取り組めない。「古文＝難しい，読みにくい」というイメージを強くもっている。

本単元に入る前に６月に「「批評」の言葉をためる」という教材で「批評」については既習事項であるが，古文を題材に「批評する」「批評文を書く」ということはとてもハードルが高い。そこで「批評の語彙」を提示して取り組ませたいと考えている。

（２）指導の構想

日本の古典文学の中でもこの「おくのほそ道」は，紀行文学としても俳文学としても価値が高い。この紀行文は同行した曾良の日記の記録から虚構を織り交ぜた文章であることが研究者によって指摘されている。芭蕉によって練りに練られた文章は作者の思いを読みとる上で文学的な価値を感じ取ることができる作品である。作品の中には，江戸時代以前に作られた作品の流れも受け継がれている。漢文体が用いられ，簡潔でリズムがよく，文体そのものからも計算されて作られた作品であることが感じられる。何度も読み，親しみ，文章から感じられるリズムの心地よさにも気付かせたい。

また，これまでに学習した古典作品との共通点や相違点について意識をもたせながら，それぞれの土地や過去の人物に思いをはせる芭蕉の知識の深さや表現の巧みさに気付かせたい。そして，芭蕉の旅に対する考え方や旅への思いについて読みとり，３００年あまりも読み継がれる価値に気付かせたい。

この単元は３年間で学習する古典学習のまとめとなる。原文を十分に音読させ，原文のよさに触れながら，作品の良さと価値について自分なりの批評文を書き，今も読み継がれる理由を原文を引用しながら，相手に伝える学習にしたいと考えている。

５　指導と評価の計画（全８時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 2 3	○「おくのほそ道」を批評するという目的意識を持たせて，学習の見通しを持つ。 「おくのほそ道」のよさはどこにあるのだろうか。 ・パワーポイントで「おくのほそ道」の概要を示す。 ・冒頭部分の音読を繰り返し行い，表現上の工夫（漢語・対句表現）を捉える。 ・冒頭部分を読み，時代背景や作者について確認する。 ・批評文用の本文を読む。	・歴史的仮名遣いや古語に注目して音読する。 ・漢語調・対句などの表現に気付くことができる。 ・表現の良さ（表現技法・リズムなど），内容のすばらしさ（現代に通じること，読ませる工夫），旅にかける芭蕉の意志（古人への思い。 ・死を覚悟しての旅）などに分類して，「おくのほそ道」の価値に気付かせる。	［国語への関心・意欲・態度］ 観察・ノート
4 5	○「平泉」高館の読みを深め，批評文を書く。 ・音読を繰り返し行う ・現代語訳を参考に内容の読みを深める。 ・内容を分類し，「平泉」高館の段のよさを読みとる。 ・根拠となる原文を抜き出す。 ・根拠となる原文をもとに細部の叙述や文の構造について話し合い，批評文（200字程度）を作成する。 ・批評文用の文章の内容を捉える。	・冒頭の批評文のモデルを示す。 ・内容をとらえ，二つの視点から，それぞれ見付け，表現をぬきだす。 内容の分類　二つに分類 ①表現のよさ （表現技法・リズム） ②内容のよさ （古人への思い・死を覚悟しての旅・無常観・自然と人間）	［国語への関心・意欲・態度］ 観察・ノート ［言語についての知識・理解・技能］ 批評文

6 本 時	○自分が書きたい場面を選び，批評文を書くために，作品のよさを検討する。 ・自分が選んだ場面の良さを根拠となる原文を基に分析する。 ・根拠となる本文をもとに細部の叙述や文の構造について話し合い，作品のよさを話し合う。	・批評する文章を引用し，各自の視点から，作品のよさを挙げ，班ごとに交流する。	［読む能力］ ワークシート
7 8	○交流したものをもとに批評文（200字～800字程度）を完成させ，発表し合う。	・自分が選んだ場面の批評文を完成させる。 ・完成した批評文を交流し合い，現代まで語り継がれる「おくのほそ道」のよさについて自分なりに批評文にまとめることができる。	「書く能力」 批評文・ワークシート

6　本時の学習（６時間目／全８時間 ）

（１）本時のねらい

・「批評」の材料となる根拠を明確にし，表現や内容について批評することができる。

・意見の交流を基に考えを広げたり，新しい発見をしたりし，批評文を書く手がかりを発見することができる。

（２）本時の構想

・自分の選んだ場面から「おくのほそ道」の良さがわかる本文を根拠として選び，批評文を書く材料を選択する。

・意見交流しながら，「おくのほそ道」への理解を深め，新しい魅力を知ったり，自分の考えを深めたりすることができる。

（３）本時の展開と評価

学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	■評価規準　○留意点
導　入 1　前時の確認 ５分 2　音読 ５分	前回までに学習した内容を確認する。 班ごとに選んだ段を音読する。	○「平泉」高館の生徒の書いた批評文の作品を紹介する。
展　開 3　各自で叙述・文の構造について確認し，批評する根拠を抜き出す。 15分	ワークシートを配付する。 〈 学習課題 〉 自分が選んだ段にはどんなよさがあるだろうか。 Ｔ１：根拠に線を引きながらワークシー	○別紙批評の観点を確認する。 ○根拠を選べない生徒は，これまでの学習を振り返らせる。共通点や相違点を意識させる。

	トに記入しよう。 Ｓ１：何か表現技法が使われているかな。 Ｓ２：これまでの内容と似ているところはあるかな。	
４　班内で交流をする 10分	Ｔ２：班の中で交流し，それぞれがすばらしい，よいと感じた根拠を確認しながら意見交換しよう。 批評の観点を掲示しながら，班の活動を支援する。 Ｓ３：体言止めが使ってあるからここが強調されている。 Ｓ４：前は人と自然では人ははかないと言っていたのに，ここでは人が作った物がこれからも残っていると言っている。 Ｓ５：聴覚に着目していて，うるさい蝉の声と静かな自然の様子が対比されている。 Ｓ６：旅から戻ってきたばかりなのに，また旅に出るなんて，旅に対する思いがとても強い。	○拡大した本文に班の意見をまとめる。（可視化） 分析の視点 ・根拠の指摘 ・どんなよさがあるか。 ・どんな思いが伝わってくるか。
５　他のグループとの交流 10分	Ｔ３：他のグループで共通点・相違点がないだろうか。意見交換してみよう。 拡大した各グループのプリントを見ながら，作品の良さを確認する。 違う段でも共通点・相違点があるか考え，読み深める参考にする。	■批評の観点を参考にして，グループ学習に意欲的に取り組んでいる。［意欲・関心・態度　観察］ ○他のグループの用紙を見て，それぞれどんな点をすばらしいと分析しているのか確認する。
まとめ ６　話し合ったことをふりかえる。 ５分	〈 まとめ 〉 自分の選んだ段のすばらしさをまとめよう。 次時に批評文を書くことを予告する。	○ワークシートで批評文に書きたい内容をまとめさせる。 ■新しい魅力を知ったり，自分の考えを深めたりしている。 ［読む　ワークシート］

参考文献

文部科学省（2008）「平成20年版中学校学習指導要領解説国語科編」

国立教育政策研究所　教育課程研究センター（2011）「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校　国語】」

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～」国語－14（第３学年）　物語や小説などを読んで批評する事例（読むこと）

高橋治（1994）「おくのほそ道ほか」講談社

角川書店編（2001）「ビギナーズ・クラシックスおくのほそ道（全）」角川書店

塚田泰彦（2014）「読む技術　成熟した読書人を目指して」創元社

井上一郎（2005）「「読解力」を伸ばす読書活動」明治図書